

## “認定医、師、士の需要 高まる”

平成 21 年 8 月 4 日(火) 17 時より、東京神田一ツ橋、学士会館において、日本統合医療学会 (IMJ) の賛助会員および CAM 分科会の合同会議が開催された。

学会理事長 渥美和彦、副理事長 仁田新一、阿岸鉄三、同席の下、約 35 名が集まった。

渥美理事長より、本年 3 月より、民主党代表 鳩山由紀夫氏の国家プロジェクト委員会に参加し、統合医療分科会の会長として政策立案に参加している旨の報告があった。

そして、統合医療大学、および統合医療センターの設立、研究費の提案 (年間 200 億円 / 3 年間) 並びに、医療特区 (北海道、東北、九州、沖縄の四地域) における統合医療のパイロットスタディの構想が提案された。

その医療特区では、鍼、マッサージ、ヨーガ、カイロプラクティック、気功、アロマセラピーのみならず、健康食品などの臨床および評価を行うことになっている。これらの臨床、研究、評価のための医師、看護師、CAM の療法士などは、日本統合医療学会 (IMJ) の認定資格者であることになる。

第一次の医療特区では、各地域で認定医 20~30 人、認定師 30~40 人、認定士 50 人が具体的に必要であるとの見解であった。この提案に対し、賛助会員、分科会委員より活発な議論が展開された。

尚、上記の研究、評価については CAM の各項目について、専門家及び企業などと協同で検討することとなる。

それらの人材としては、学会の認定医、師、士があたる事が述べられ、認定資格の拡大の必要性が指摘された。

一般社団法人日本統合医療学会(IMJ)  
事務局